

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

吉川市立東中学校（埼玉県）

【取組内容①】 探究的な学びを通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の記録を残すデジタル・ポートフォリオの実践

ねらい

考えるテーマ、課題を明確にし、思考、検索、編集、まとめ等の自らの学びの時間を確保し、その学びの過程や成果を記録に残す。さらに他者と共有しながら、相互が自らの学びをさらに深めたり、グループの考え等を構築する機会創出をICTの活用を通してねらう。

多様性を理解した関係づくりができる

情報を適切に活用・編集・発信できる

本取組を通して吉川市が子供たちにつけたい力



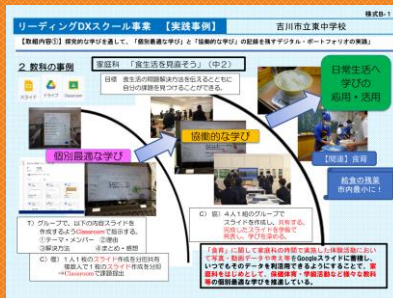
学校外の人・モノ・コトと積極的に繋がることできる

成果

従来のノート、プリントだけでなく端末やLMS、インターネットを活用することにより広く、深く自分の課題と向き合うことが可能となった。それをデジタル・ポートフォリオで記録し、他者と共有する場面、それを後日発表するとき子供たちの積極性、自信が増すことも成果といえ、将来に向けた武器となることの気づきを得られたと考える。

課題

個々の学びの場面、共有の場面で何をどう記録し、それが自分の学びの足跡として将来役立てるかの見通しが立てづらく、教師の指示による記録、なんでも記録、自分の選択による記録等、方針・目標が不明確な点は次年度に検討していく必要がある。さらに、この実践を子供が支持なく市内各学校で日常的に行える積み重ねのための方策展開が必要。



リーディングDXスクール事業 【実践事例】

吉川市立東中学校（埼玉県）

【取組内容①】 探究的な学びを通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の記録を残すデジタル・ポートフォリオの実践」

様式B-1

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

吉川市立東中学校

【取組内容①】 探究的な学びを通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の記録を残すデジタル・ポートフォリオの実践」

2 教科の事例

家庭科 「食生活を見直そう」（中2）

目標 食生活の問題解決方法を伝えるとともに自分の課題を見つけることができる。

個別最適な学び

協働的な学び

日常生活へ学びの応用・活用

【関連】 食育
給食の残菜 市内最小に！

T) グループで、以下の内容スライドを作成するようClassroomで指示する。
①テーマ・メンバー ②理由
③解決方法 ④まとめ・感想

C) 協) 4人1組のグループでスライドを作成し、共有する。完成したスライドを学級で発表し、学びを深める。

「食育」に関して家庭科の時間で実施した体験活動において写真・動画データや考え等をGoogleスライドに蓄積し、いつでもそのデータを利活用できるようにすることで、家庭科をはじめとして、保健体育・学級活動など様々な教科等の個別最適な学びを推進している。

様式B-2

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

吉川市立東中学校

【取組内容①】 探究的な学びを通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の記録を残すデジタル・ポートフォリオの実践」

2 教科の事例

総合的な学習の時間 （中1）

学習内容

持続可能な未来の実現に向けて一次産業から六次産業まで、様々な取り組みを行っているKURKKU FIELDSでの体験活動を通して、持続可能な社会の実現に向けた、サステナブルな暮らし方や生き方について自分の生活を踏まえ考えを深めた成果を発表する。

1 生徒が自ら課題を設定 2 探究の過程 3 自分の考えや課題を更新

持続可能な社会について東中学校の身近な環境から「農業」を軸に考える。循環型農業、生産と消費、フードロス等をキーワードとし、個人のプログラムやグループを決定する。農業施設に伺い、食へのこだわりや大切にしたい価値観、場内のサステナブルな仕組みについて学んだことを感想やメモも含めてGoogleスライドに記録し、デジタル・ポートフォリオとして蓄積する。

循環型農業を通じて、「美味しい野菜を作る事」と「自然環境を守る事」が繋がっている事を学ぶ。農作業や収穫体験を通じて循環型農業について、写真・動画データ及び、メモ書き・感想などGoogleスライドに蓄積する。また、体験活動を通して、消費のあり方について考え、農作業を通じて野菜についての知識・理解を深める。持続可能な生産と消費のあり方を考え、記録しておく。

学校へ戻り、記録したデジタル・ポートフォリオをもとに個人のプログラムのまとめと発表資料の作成を行う。発表資料については、Googleスライドで集めた資料を活用してスライドに解説やポイントを加えて記載し、発表を行う。学級で行った発表をもとに自分のプログラムをもう一度見直し、今後の自分の生活の仕方について目標を立てる。

子供の発表を学校の財産に

生徒のよい実践事例や発表資料については、個人情報を除いた学校の共有ドライブ（あじさいドライブ）で保存し、次年度の好事例として残すことで、教師の指導と評価の一体化につなげる。

個別最適な学び

Googleスライドに自分が得た情報を蓄積し、自分のデータをいつでも引き出せるようにすることで、自己調整をしながら学習を進めることができるようになった。

協働的な学び

Classroomで情報共有をし、グループ活動することで友達の意見を瞬時に把握し、自分の学びに活かすことができ、学びを広げ、深めることができた。



ドライブ

Google スライド



Classroom

リーディングDXスクール事【実践事例修正】

吉川市立東中学校(埼玉県)

【取組内容②】 ICTに係る専門家によるオンライン授業の実施

ねらい

市のデジタル・シティズンシップ教育に係る6つの項目を特任教育支援員が全小・中学校、全学年対象で授業を実施することで、市内児童・生徒全員にICTに係る知識や理解を深める。また、教職員研修も全校悉皆で実施し、教職員からの継続的な指導をねらいとしている。

一室からオンラインで複数学級一斉授業を実施



様式B-4
リーディングDXスクール事【実践事例】 吉川市立東小学校(埼玉県)

【取組内容②】 ICTに係る専門家によるオンライン授業の実施

吉川市立東小学校・シティズンシップ教育のねらい

- 市内教職員及び児童・生徒の理解活用能力の育成とICTの活用
- 多様な学習方法の活用、活用促進
- 専門家のデジタル・シティズンシップ教育での活用

市立東小学校1～4年まで実施

インターネットの特性・仕組みを学ぶ
インターネットの設備を尋ねる
インターネット上の個人情報を守る
インターネット上の著作権を守る
インターネット上のマナー(ルール)を理解する
インターネット上のセキュリティを守る

中学1年生
情報活用能力を高め、積極的に活用する力を育てる。

中学2・3年生
情報活用能力を高め、積極的に活用する力を育てる。

中学1年生 中学2・3年生
情報の活用から情報の活用
情報の活用から情報の活用
情報の活用から情報の活用

スマートフォンの活用に関する指導の考え

スマートフォンは様々な便利さがある。また、様々なサービスが利用できる。スマートフォンは、様々なサービスが利用できる。スマートフォンは、様々なサービスが利用できる。



個別 × 協働



多様性を理解した関係づくりができる

情報を適切に活用・編集・発信できる



学校外の人・モノ・コトと積極的に繋がることできる

成果

全校共通して同様の指導を実施しているため、教職員と児童・生徒の間に共通認識ができていると感じている。また、ICTの活用について教職員が指導する際に、ただ、禁止するのではなく、「ICTを効果的に活用する」視点が身に付いてきている。

課題

専門家からの授業がその授業時間のみの単発授業のような形になってしまうと、児童・生徒への継続した指導が実施できなくなってしまう。今後は、学校職員がデジタル・シティズンシップについて、さらに研修を重ね、日常的に繰り返し指導ができるようにしていかなければならない。そのためには研修や授業終了後に校内職員で共通した指導を実施できるよう体制づくりを行う必要がある。

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

吉川市立東中学校（埼玉県）

【取組内容②】 ICTに係る専門家によるオンライン授業の実施

吉川市のデジタル・シティズンシップ教育のねらい
市内教職員及び児童・生徒の情報活用能力の育成とICTの善き使い手としての資質・能力を育てる。



一室からオンラインで複数学級一斉授業を実施



吉川市のデジタル・シティズンシップ教育 6つのレクチャーテーマ

- ① インターネットの特性・仕組みを学ぶ
- ② インターネットの投稿を考える
- ③ インターネット上の悪口・いじめを考える
- ④ インターネット上のウソやだましにのらない
- ⑤ インターネットのマナー・プライバシー・権利を守る
- ⑥ メディア・リテラシーを高める

市内全校小1～中3まで実施

令和4年度はデジタル・シティズンシップに関わる網羅的な内容を学習

令和5年度は、令和4年度学習したことを活かし、より実践的な学習を実施

様々な事象を「自分事」として捉える



中学1年生
令和4年度に引き続き、網羅的に6本のレクチャーテーマを学習する。

中学2・3年生
令和5年度は、6つのレクチャーテーマの中から、いくつかを抽出し、実践的な学習を行う。

スマートフォンを利用する際の生徒の考え



中学1年生



6つのレクチャーテーマを網羅的に学習

中学2・3年生

SNSの投稿から情報の真意を読み取る学習を実施。自分が実際にその投稿を見たときにどう感じるのか、またそのときどのように対処していくかを話し合い、考えた。

スマホには様々なサービスという恩恵と、スマホにコントロールされるリスクがある。

スマホ等ICTの恩恵とリスクは何か
どうするスマホやタブレットの誘惑

誘惑に打ち勝つには、目的を考える必要がある。娯楽のためならそれで構わない。目的を考えて利用すること、それがスマホを利用する術なのである。

他者の意見を取り入れ自分の学びを深める

リーディングDXスクール事業

【実践事例】

吉川市立東中学校（埼玉県）

【取組内容③】児童・生徒の日常的な心の変化を捉える心の健康観察のアプリの活用

ねらい

児童・生徒の心身の健康状態を把握することは教職員の務めでもあるが、それを多角的に把握できたら教職員の教務のDXともなる。ICTを活用し、教職のプロの目プラスαの実現に取り組む。さらに得られたデータを有効に活用することで不登校の未然防止から一人ひとりが輝ける学校生活の構築を図る。

子供のサインをいち早く察知

学校外の人・もの・コトと積極的に繋がることができる

情報を適切に活用・編集・発信できる

本取組を通して吉川市が子供たちにつけたい力



自分を肯定し主体的に行動できる

自分や他者の心と体を大切にできる

成果

児童生徒も教職員も日ごろ使い慣れているGoogleフォームを活用し、そのデータを一括に書き出せるシステムは容易に構築、理解、運用が可能であり、朝の会等で簡単に実施できるため負担感も少ない。このデータを定期的に学校が確認し、気になる児童生徒に声がけをしたという事例も増えてきている。また、児童生徒にとっても見てもらえているという安心感にもつながっている。

課題

日々の実施からそのチェックは学校（特に児童生徒の多い学校）にとって新たな負担感が増すことも事実。また、チェックしたデータをどう共有し、次の行動に移すかのシステム構築も大切となってくる。そこで、担任に頼り過ぎずどのレベルから、誰に、自動で通知がいくというシステム進化を目指して、専門家の支援を仰ぎながら、さらなる改善を行うことが必要で動き始めている。

【取組内容④】 校務効率化を目指す校内共有ドライブの充実

ねらい

Google コンテンツを教職員が積極的に活用することで、校務を効率化すると共に、教育活動にも積極的に活用していく。教職員のICT技術を向上することで、校務の効率化及び、教師の指導力向上をねらいとする。

校務効率化
↓
働き方改革



教師の指導力
向上

情報を適切に活用・編集・発信できる

本取組を通して吉川市が子供たちにつけたい力



学校外の
人・もの・ことと
積極的に
繋がること
ができる

成果

教職員が校務を進める際にICTを積極的に活用することで、職員会議のペーパーレス化を実現し、データ共有も容易になった。また、教職員のICT活用技術が向上し、生徒の教育活動の様々な場面で活用することができた。

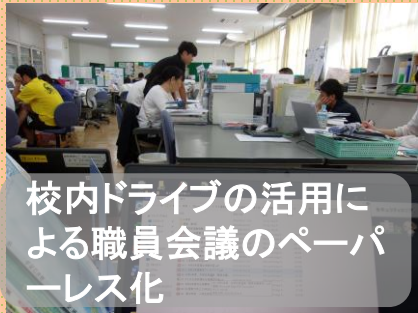
課題

今回は、紙の削減、移動時間・手間の排除等がメインのDX化であった。今後はさらにデータの記録、保存、共有やコンテンツの協同編集や従前のやり方の転換などにも視点を置き、校務効率化をめざし、働き方改革につなげていく必要がある。

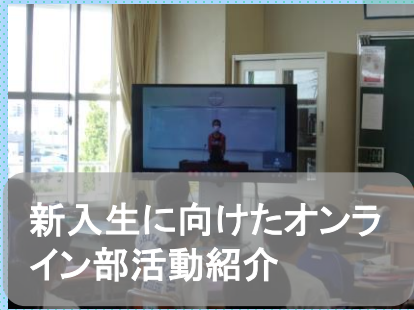
【取組内容④】校務効率化を目指す校内共有ドライブの充実

校務支援システム × 学習系端末

Googleコンテンツをフル活用



校内ドライブの活用による職員会議のペーパーレス化



新入生に向けたオンライン部活動紹介



全校朝会のオンラインライブ配信



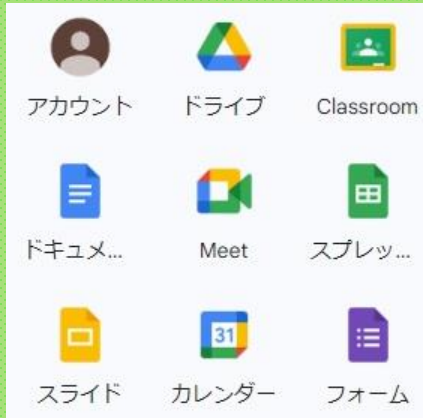
オンライン生徒会



オンラインで実施する校内研修分科会



オンラインを活用した小中一貫研修



紙資料からデジタル資料への転換

デジタル資料・教材の汎用的活用

オンライン手段を活用した情報提供

オンライン手段を活用した情報相互共有

既存の方法、内容等の置き換えからの新しい価値への再定義へ

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

吉川市立東中学校（埼玉県）

【取組内容⑤】市教育委員会と連動した、実践内容の地域内外への発信・普及

ねらい

自分たちの学びの成果を見守る児童生徒、教職員が積極的に発信する機会、技能をICT活用で得ることをめざす。そこには、自分たちの学びを自信をもって披露する自己肯定感や有用感を高めること、積極的発信が学校外と新たな繋がりを生み、学校の協力、支援者ともなり、より学びを深めることに気づけることも含まれる。

学校外の
人・もの・コトと
積極的に
繋がること
ができる

多様性を
理解した
関係づくり
ができる

情報を
適切に
活用・編集・
発信できる

本取組を通して吉川市が子供たちにつけたい力



自分を肯定し
主体的に
行動できる

自分や他者の
心と体を
大切にできる

成果

学校はICT活用した学びの成果を協力者、地域等へ発信し始めている。その反応、成果から発信することの意義やさらなる技術等の向上を目指す意欲が見て取れる。教育委員会もX、YouTubeチャンネルなど多様なインターネット配信を駆使し、リーディングDXの実践成果や日々の学校実践の発信に努めている。こうした発信が市の教育行政への理解と協力につながる手ごたえを感じ始めている。

課題

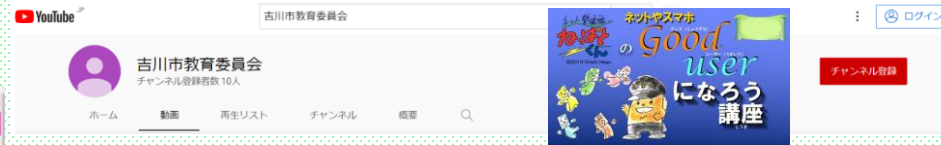
本市が力を入れているデジタル・シティズンシップ教育はこうした発信の機会にその成果を発揮するものである。発信機会にこうした学びを成果と連携させること、さらにPBL探究的な学びにおいても同じようなテーマ、実践を進めている他市、他地域と積極的にオンライン情報交流の機会の創出など新たな取組を進めたい。また、市独自採用のICT支援員構築のポータルサイトのコンテンツを30に増量していく。

【取組内容⑤】市教育委員会と連動した、実践内容の地域内外への発信・普及

ねらい

吉川市が運営する情報活用サイト、YouTubeチャンネル、SNS(X)にリーディングDXでの取組を紹介すると共に、各学校で実践を意欲的、積極的に発信することの奨励を図る

LDXをはじめとした様々なICT関連の情報を教員に発信



吉川市教委作成YouTubeチャンネルデジタル・シティズンシップ動画教材
<https://www.youtube.com/@user-xi3me1rp8y/videos>



リーディングDX推進校の取組
東中学校

リーディングDX校の実践



- ◆ICT活用サイトでできること◆
- ・市内外のICT関連の情報収集
- ・ICT支援員の派遣申請
- ・市のICT担当への質問 等